

令和8年度 総合型選抜

試験問題

9時00分 - 11時00分

地域デザイン科学部志願者（建築都市デザイン学科）

造形実技

[注意]

1. 開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚ある。「受験番号」は、すべての解答用紙および下書き用紙の受験番号欄に忘れずに記入すること。
3. この冊子には問題が2つある。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合は、申し出ること。
4. 解答は、必ず解答用紙の所定の位置に記入すること。第1問は解答用紙（その1）に、第2問は解答用紙（その2）に解答すること。
5. 鉛筆および消しゴムは貸与のものを使用すること。
6. 貸与された鉛筆および消しゴムは持ち帰らないこと。

第1問

図1に示す展開図を有する立体が3体ある。3体の立体は、図2に示すように、展開図で示された面ABCDを下面として一様な水平面に設置されている。一様な水平面の高さを0mとする。点線は補助線である。

3つの立体が見える様子を、下記の条件にしたがって解答用紙の枠内に大きく描きなさい。

条 件

- ① 図2のアの地点の高さ1.5mの位置から、図2に示す矢印の向きの水平方向を見た時に見える立体の全体像を描くこと。
- ② アイレベルの左右に消失点を配した二点透視図法を用いて表現すること。2つの主要な消失点を明記すること。また、図2上に示す北方向を、透視図上に一点鎖線の垂直線を用いて明記すること。なお、補助線については、解答を説明するのに必要と思うものについては、全体像の形態を邪魔しない範囲で、点線として一部残しても構わない。
- ③ 定規、コンパスの類は用いず、黒鉛筆で描くこと。
- ④ 手元にある紙を、切ったり折ったりして立体を作らないこと。

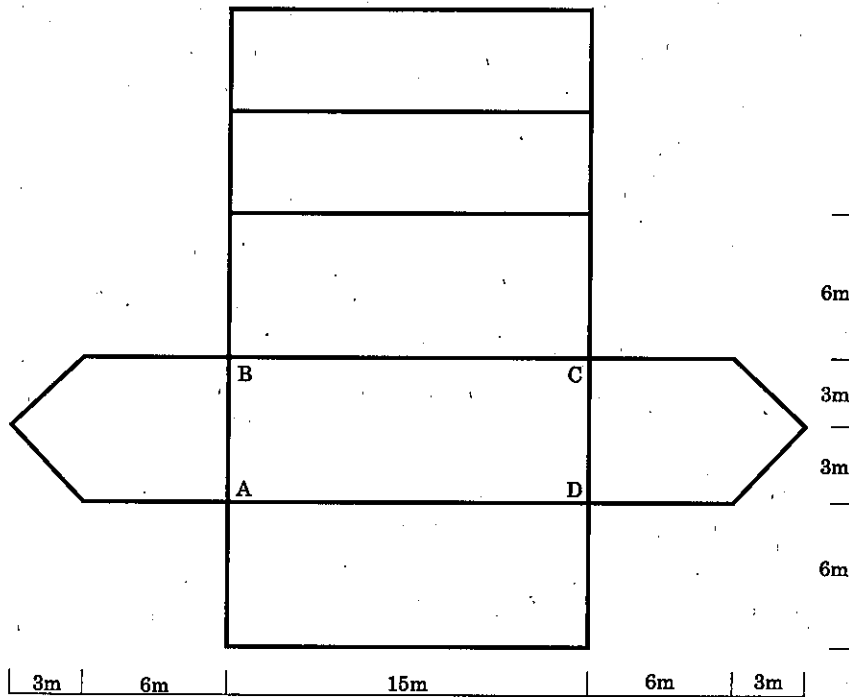


図1 立体の展開図

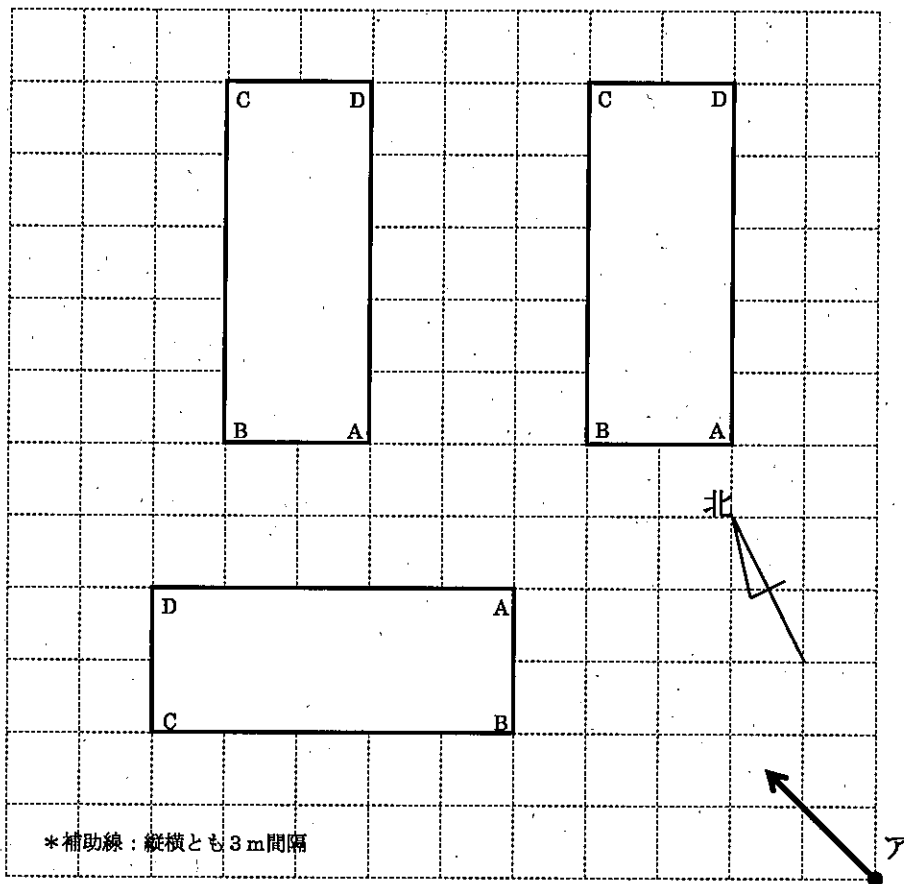


図2 立体の配置と視点位置等

第2問

鬼怒川の土手を利用したサイクリングロードには図1のような休憩所が存在する。休憩所の敷地内とサイクリングロードはそれぞれ一様な平面であり、サイクリングロードは休憩所よりも2m高い位置にある。サイクリングロードと休憩所の間は傾きの一様な斜面である。図1の東屋内には4人がけの机と椅子がある。現在の休憩所は利用者がまばらでありあまり活用されていない。以下の条件に従ってサイクリングロードの利用者が立ち寄りたくなるような休憩所を考案し、その様子を解答用紙の枠内に立体的に大きく描きなさい。また、利用促進のために工夫した点について、解答用紙下部のマス目内に収まるように述べなさい。

条件

- ① おおまかな寸法を描き入れること。
- ② 定規、コンパスの類は用いず、黒鉛筆で描くこと。
- ③ 休憩所の敷地は農地に隣接しているため、水平方向にはこれ以上拡張できないものとする。敷地内に加えて、土手の斜面は自由に計画してよい。
- ④ 既存の設備にとらわれず自由に計画してよい。
- ⑤ サイクリングロードの利用者が休憩所を利用している様子を描くこと。

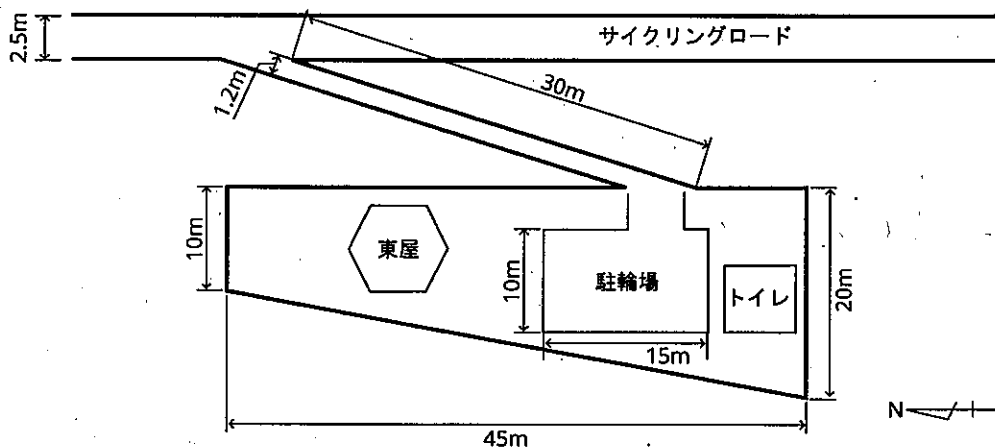


図1 サイクリングロードおよび休憩所を上から見た図

第1問

出題の意図

建築・都市を把握・設計していく上で必要な、物体や図形に関する立体的な理解と、正確に表現する技術を検査する。与えられた視点位置・視野の条件の理解、建物の見え方や建物と建物の重なり方、平行線の描き方など、透視図（二点透視）の図法にそった正確な描画ができているかが採点の基準である。

第2問

出題の意図

建築を学ぼうえで重要となる想像力・表現力を検査する。表現力については考案した休憩所をわかりやすく描画する能力に加え、工夫した点について簡潔な文章で表現する能力についても検査する。